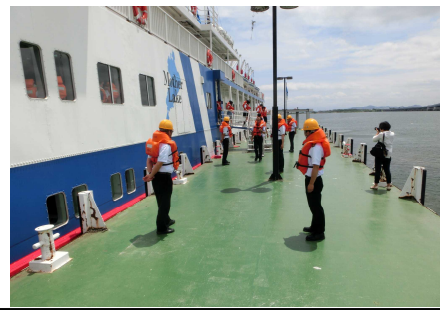


所長だより第23号 平成26年7月1日 7月発行

かきくけ航海日誌

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<http://www.uminoko.jp/>



緊急着船訓練

「みずうみに学んで 世界の明日をみる」

「かきくけ航海」を生み出そう！

合言葉 か・・・考える き・・・気づく く・・・工夫する
け・・・継続する こ・・・行動する

「Think globally, Act locally」 地球規模で考え、足元から行動せよ

【所長 新庄 正幸】



第1回航海出航式で挨拶したことを思い出しています。30年前に「うみのこ」が造られたときから、スローガン「みずうみに学んで世界の明日をみる」があります。

フローティングスクールでのさまざまな体験学習を通して、「琵琶湖や滋賀県のこと」を語れる人になってほしいと願います。未知なる宇宙に旅立つように、目を凝らし、耳を澄ませ、嗅覚を鋭くするが如く、琵琶湖を巡ってほしいのです。また、宇宙から滋賀県や琵琶湖を見るという視

点も持ってほしいとも思います。宇宙から見える景色を思い浮かべて、「ふるさと滋賀」を再発見した時に、「足元から行動する」ことが見つかるはずです。

環境をはじめ多くの社会問題には、国境や県境がなく、誰もが世の中をよりよい方向に導きたいと願っています。まずはその問題に気づき、認識することによって、工夫し、行動することができます。「自分一人では何も変わらない」と思いがちですが、一人ひとりが行動を起こし、継続すれば改善に向けて前進することができると思います。

宇宙から見渡すような地球規模の視点と、足元を見つめ行動できる視点を合わせ持つフローティングスクールの「湖の子」学習であってほしいものです。

「Think globally, Act locally」 地球規模で考え、足元から行動せよ

かきくけコーナー

第10回航海でのことです。学習のまとめの時間は、担当の先生が子どもたちの反応を見ながら、子どもたちの反応を見ながら語りかけられていました。何よりも、その先生自身がびわ湖環境学習で疑問に感じたことを説明し、疑問を感じる大切さ、その疑問にどのようにアプローチし、継続していくかということなど「学び方を学ぶ」重要性を強調されていました。帰校後、子どもたちのさらなる追求や他教科・他学習にも生かされることを願います。

第11回航海では、竹生島一周の時にカワウの鳴き声に気づいた所員の放送によって、子どもたちが、カワウの「キャーキャー」とも「ミャーミャー」とも聞き取れる鳴き声に耳を傾けました。子どもたちは、「雑と違うかな？」と話し合い、竹生島に生息する生命の姿をリアルに感じていました。航海のめあてにされた「びわ湖を体で感じる」学びができたのではないのでしょうか。